関節液中にコレステロール結晶を認めた一例

◎澤井 真史[1)]、塩原 侑希子[1)]、尾崎 美衣亜[1)]、北村 千里[1)]、石橋 史子[1)]
富山県リハビリテーション病院・こども支援センター[1)]

【はじめに】 関節液中に観察される結晶には，尿酸ナトリウム，ピロリン酸カルシウムがあるが，コレステロール結晶が関節液中に検出されることは稀である． 今回我々は,関節液から大量のコレステロール結晶を認めた一例を経験したので報告する.

【症例】 脂質異常症,関節リウマチ,糖尿病の現病歴がある74歳男性． 20××年4月，自宅にてふらつきと構音障害に気づき救急搬送される． 軽度右片麻痺， 複視が出現したため,頭部MRI検査を実施，多発性脳梗塞が認められた．同5月,右片麻痺のリハビリ目的にて当院へ転院した．同6月，看護師が両側外踝の水腫（右＞左）を発見し， 整形外科を受診し，滑液包炎と診断された．熱感，圧痛，運動時痛なし.

【検査所見】WBC10,060/μL,CRP0.09mg/dL,TCHO203mg/dL,LDLC124mg/dL,HDLC29mg/dL,TG248mg/dL,ALB3.2g/dL,UN22.9mg/dL,CRE1.32mg/dL,HbA1c8.8%,UA7.4mg/dL.

関節液:右外踝を穿刺すると,黄白色混濁を呈する関節液が3mL程度吸引された．細胞数2,125/μL，好中球68%，細菌培養結果は陰性，尿酸ナトリウム結晶(-)，ピロリン酸カルシウム結晶(-)であったが,簡易偏光装置で複屈折性を示し,長方形で板状を呈するコレステロール結晶が大量に観察された.患者は手術を行わず,当面経過観察となった.

【考察】 関節液中にコレステロール結晶を認める頻度は1%以下である.大部分が関節リウマチであり,強直性脊椎炎,色素性絨毛結節性滑膜炎,感染例もあるとされている.関節液中でのコレステロール発生の機序としては,血管からの流入増加,局所での産生などが考えられる。本例では背景に脂質異常症,関節リウマチがあるため,コレステロールの滑液包への流入や,組織破壊によるコレステロール結晶の産生などが要因となっている可能性があると思われた.

【結語】今回,滑液包炎と診断され,関節液からコレステロール結晶を検出した一症例を経験した.顕微鏡検査による結晶の観察は診断的価値が高く,疾患の鑑別に有用である.

連絡先：(076)438-2233 (内線175)